



手話でおしゃべりを楽しんでいます

え??「ちゃっと」ってパソコンを使って、ネット上でお話しすることじゃないの?その通りです。でもALTAの「ちゃっと」は、手話でおしゃべりするサークルなんです。

手話っていうと難しい気がするかもしれませんが、やってみると結構楽しくて、最近だんだん手が動くようになってきました。手話って頭で覚えるんじゃなくて、手でお話しするつもりになって、指文字やジェスチャーで話しているうちに、だんだんと覚えていくものなんです。

「ちゃっと」は、ALTAの短期講座「手話」に参加したみんなが始めたサークルで、結成してからはや1年半がすぎました。現在メンバーは6人。毎週水曜日、ALTAを会場に「手話」でおしゃべりを楽しんでいます。

手話サークル「ちゃっと」に参加したい方は、ALTA shiroishi白石市勤労青少年ホーム☎25-3720へお問い合わせください。



市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市宇理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋辰男 選

一人居の友の家訪えば次々と話題つづきて立ち去りがたし
 石沢 敏子
 用ありて出で来し街に乙女らは皆夏着にて手足伸びやか
 黒沢 修子
 列車見る子供供の楽しみ秋までは青葉に阻まれ暫しお休み
 古山 智子
 週毎のデイサービスに参加して友と語らう歩みし過去を
 八島 三郎
 盛りあがる土をくすせば丸々と育ちしいものころがりて落つ
 阿部みさ子
 朝一番のモーニングコール花や木に元氣もらつて今日もはじまる
 村山美代子
 ひさびさに定義如来を詣で来てラドンのお湯に友とひたりぬ
 岡崎 澄子
 台風に倒れし野菜手入れする夕づく畑にひくらしの鳴く
 佐藤 ひで
 畑より草取り半ばに帰り来し夜半に激しき雨の音聞く
 平間 久子
 母と子の別れのつらさは皆同じもらい来し子猫一夜啼き居り
 山田 濱
 評 一首目 話し相手欲しい一人居の友に、帰る機会を逃してつい長居したが仕方がない。二首目 夏、若い女性のファッションが街で目につく。体もそして心も伸びやかでまぶしいくらいだ。三首目 列車を見る楽しみが落葉する季節までお預けになった子供に同情。

俳壇

遠藤秋尾 選

夏蒲団他人のごとき軽やかな
 大庭 良子
 梅雨の街うす墨色の影を置く
 佐藤 周子
 梅を干す色鮮やかに匂ふなり
 高子たちばな
 朝どりの野菜毛虫も頂きぬ
 山下 弘子
 老夫婦いたはりあいて旅涼し
 山家 弘子

柳壇

山田風流 選

初生りの曲り胡瓜や朝の膳
 岩沢 伍峯
 蝉涼し甲曹堂の坂登る
 制野 リエ
 ゆすら梅朝陽に赤く輝やけり
 川村 静恵
 梅雨明けの空に一筋飛行雲
 高橋 正男
 老自愛癖となりたる昼寝かな
 三浦 愛嶺
 評 一句目 夏蒲団に替えてみて何と軽いことかと思つた。それを「他人のごとく」と表現して面白い句となつた。俳諧味のある作品二句目 梅雨深い街の風景。「うす墨色」とは作者の心情でもある。三句目 梅を広げて干すと酸っぱくにおうのである。「色鮮やか」がこの句を引き立てた。四句目 無農薬野菜を頂いた。毛虫も一匹入っていたが安心して野菜を頂いたのであろう。

天国の招待状は願不同
 大野 修一
 人生は浮きつ沈みつまならず
 鈴木 希市
 ゼロ金利さわぐ程にはない預金
 四電 英夫
 長寿より生きざま気になる日記帳
 大沼 妙子
 妥協する頃合いを見て妻の酌
 草野 清
 多機能の電話器明治もてあまし
 米沢 礼子
 老いしと秘めた気骨はまだ確かか
 一條 芳子
 かじられたスネで老後を細く生き
 佐藤 武雄
 年金にしがみついている老いの杖
 大庭 良子
 マネキンが汗をかいてる冬商戦
 小野嘉津子

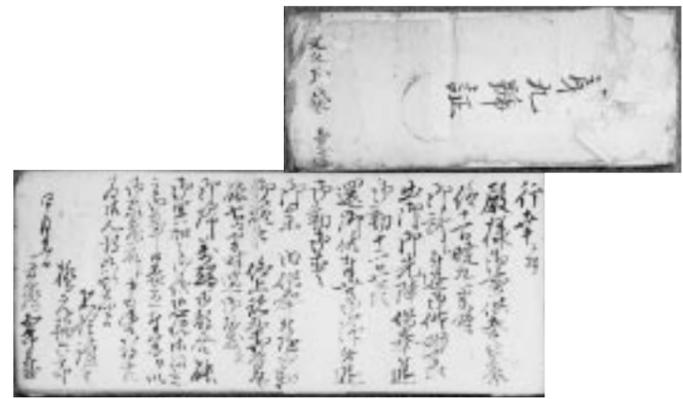
評 一句目 老若男女の別なく、いつか来る招待状。健康に留意し、欠席に 習いして返しましょう。二句目 栄枯盛衰は世の習い。木の葉が沈んで石が流れる世が怖い。三句目 ゼロ金利、近く解除の様子。庶民には金利よりインフレが心配。四句目 七句目共に高齢者の心のありように、贈拍手。今回はせんえつながら少し筆を入れさせていたいただいた句がごさいます。「何を風詠したのか」をしつかり持つて作句され、推敲も加えられてはいかと思ひます。

白石の古文書 ⑤

文久耳袋 武藤家文書 2

文久三年(一八六三)四月十一日

日に孝明天皇の石清水八幡宮行幸に際し、諸大名の行列参加はもちろんのことであったが、特に片倉家には、伝奏衆(朝廷と武家との伝達役)の野村宰相から、行幸路の警護供奉を仰せ付けられ先陣供奉を相勤めた。



ここでは京都詰・高橋五郎兵衛の記述した文章を紹介したい。前述の経緯から、片倉家は百十九名の行列をもって先陣供奉を勤め、特に家格をもつてお伺いして、京都洛中から活火繩(点火した火繩)を用い、御所六門の内まで鉄砲持ち込み苦しからずと言つことになった。諸大名といえども、槍・鉄砲はだめで、長刀ばかり持たせられるにわかならず、このときは、對槍や御添槍のみならず、十刃鉄砲、緋袋入り十挺活火繩で、人々は驚いて行列の先を見て、九曜紋付きだから細川の行列と言つ者もいたが、御具足箱に片倉家の札二枚をつけて置いたのを見て、仙台の片倉十萬石などと言ひ、見る人のうち下々の者は、手を合わせ拜む者などもあった。

加えて、天子のお通りの際は「制し」などもなく、自然に拝見の人々は合掌して拝見し、不敬などということもなかった。

以上は、片倉家が大いに面目を施した、一挙であったと言えるが、尊皇攘夷の風潮から次第に維新に向かう過程の一コマであろう。

(白石市図書館蔵)

国際コーナー International Corner

カロライナの



7月27日から8月6日まで、市内中学生8人と2人の引率者が暑い日本を去って、真冬の姉妹都市ハーストビル市を訪問しました。ハーストビルでホストファミリー宅に泊まり、体験入学もして、外国での生活を味わいました。

ハーストビル滞在中には、今月オリンピックゲームを開催するシドニーの有名なオペラハウスとハーバーブリッジのほかに、オリンピックゲームの施設も見ることができたそうです。

オーストラリアの首都キャンベラにも行きました。そこで国会議事堂と戦争記念館に行って、政治と歴史の勉強をしました。戦争記念館では、第二次世界大戦における日本とオーストラリア間の出来事を初めて知り、世界平和の重要性を勉強しました。

ハーストビル市役所でのさようならパーティーでは、ハーストビル市の皆さんへのお礼として、法被を着て白石音頭を踊ったそうです!

オーストラリアでの時間があっという間だった中学生からのほかのコメントは:

- * 学校で午前中に20分のおやつ時間があってびっくりした。
- * 学校で起立と礼はしない。
- * 「デジモン」がオーストラリアのテレビでやっている!
- みんなはオーストラリアで楽しい時を過ごしたようですね。きっと生涯忘れられない思い出になるでしょうね。



◆ティンパンク女子高にて